

精神病の境

三 宅 鑛 一

私は醫學を專攻致して居ります者で御座いますので、貴下方に對してお話を致しまする資格の有無を自分から考へますと、今晚此席に出してお話を致しますのは甚だ嗚呼がましい次第の様に考へますが、併し先般來本會の幹事からお話がありまして、強いて今晚出て話をする様にと云ふ御依頼もありましたし且本日御話し申上ます事は萬更諸君に御關係のない事のみでもないやうに考へまして出席いたしました様な次第であります。されば一體本會は何う云ふ性質の會合でありますか十分會得致しませぬ位で、唯今此處へ參りまして加藤博士に伺ひまして能く知つた様な譯で御座います。従つて十分の腹案もありませんので、此の處で氣附きました事を成可く皆様に御縁のあるやうな事柄につめてお話致す積りであります。偕て世の中が段々複雑になりまして、殊に日本の様に歐羅巴の文明も這入り又色々精神的にも身體的にも餘程の重荷を脊負つて居ります人間には、色々精神的の激變が起り又日本の政體其他の事に就いても色々思想の變遷があるに違ひないと思ひます。さう云ふ際にはその思想界の變調又は精神界の現象に私共から見ますと普通ではない、または少なくとも普通ではなからうと思はるゝ様な考へが往々存在して居りますやうに思はれます。例之ストライキとか、或は幼年者の犯罪とか、或は政治上の事柄に關しての色々の

思想變遷などにも中には私共から見ますと、どうも普通ではあるまいと思はれることが澤山有ります。即ち本當の病人でなくつても、何所か違つて居る精神作用に基づくのではないかと云ふことを知る場合が澤山有ります。

併し又一面から考へますと吾々が、あれは少し違つて居る、此人も變だ、あの人も變だと云ふと、何うも醫者と云ふものは一寸した事を皆病氣にしたがる癖があると云ふ様に誤解される點もないではありません従つて本日此席に於きまして、先づ一體違つて居ると云ふのは何う云ふ所から違ふか普通でないかと云ふ事は何處からの境であるか病氣と云ふのは何う云ふ點から病氣と云ふのか、換言すれば病氣と健康との境は何處であるか、又其病氣と健康との境と云ふものが果してあるものかどうか、若し健康と病との境が付け得られないものならば其中間に位するものは何う云ふ種類の人であるか。又さう云ふ中間に位する人間があるならば其れを何う云ふ風に救濟したら宜いかと云ふ事をお話しやうと思ひます。要するに結着は特別教育と云ふ話になる譯であります。

今其等の點につき極めて大要を述べますと第一には違つて居ると云ふことは何かと云ふ事から御話しいたします。然すれば人は皆各々違つて居るので精神作用と云ふものは常に同じものではない。例へば極く精密に測ります器械によりますと、疲勞して居る時の精神状態と疲勞して居らぬ時の精神状態とは違ふ。又腹の空いて居る時の精神状態と腹の張つて居る時の精神状態とも非常に違います。殊に觀念の聯想である

とか或は反應の時間であるとかまたは感情の違ひであるとか云ふ様なことには色々變化の有ることが分つて居ります。普通病人でなく平素の状態に於きましても吾々一日中に精神の最も明瞭な時は先づ一日に二回あると云ふて居ります、其れ以外の時は多少それに比して違つて居ると申されます。況や各年齢に於ける老若男女又は個人々に依つても皆違つた性質違つた精神状態を有つてゐるのであります。従つて何處が違つてゐると云ふ其境を付けることが非常に困難な事であります。もう一度申しますと、健康なる者でありますしても其精神状態は老若男女の別其他種々の場合に依つて違つてゐるのでありますから、吾々の方で普通とは何う云ふものであるかと云ふことが餘程六ヶ敷いのであります。例へば形の上に於きましても人の鼻の形は、どれが一體普通の鼻であるかノルマルであるかと云ふことを定むる事は困難であり實際は不可能であるといふことを申しますが、普通と云ふことは中々分らぬのであります。さうして見ると平素普通と云ふものゝ中にも差別が澤山あつてその範圍を定める事が餘り樂なものでないといふことが第一に考へて置かなければならぬのであります。

然るに一面病人の事を考へて見ますと、精神病とは何う云ふ精神状態を持つて居るものかと云ふ事を考へますと、諸君の中にもさう云ふ人を御覽になつた方があるかも知れませぬけれども、之には澤山の種類があります。一例を申しますと、非常に間違つた考を起すもの、學術上妄想と云ふ間違つた考へを持つて居るもの例之有名な葦原將軍であるとか云ふ様に、誇大思想とても云ふべきものがある人もある。又は

自分が天皇陛下である、二重橋の内に居られる天皇陛下は、外の天子で己れが本當の天皇陛下であると言ふ様な事を發狂人は申します。若し斯かる事を申せば誰しも是は氣が違つて居ると云ふとが分る。けれども之に似た考違ひであつても一寸見てもは理窟に叶ふ様に見える考へ違ひ即ち妄想類似のものは普通の人間にも澤山有ります。例之迷信を有する人とか或は誤解をしてゐる人も多い。殊に感情に激してゐる場合などには自分の誤解の分らぬことが澤山有る。就中宗教の争とか或は政治上の争とかである、中々普通の人間にも考違ひであると云ふことを自覺しない人が澤山有る。其様の考へ違ひと云ふものを純粹に抽象して考へて見れば、精神病者の妄想と大體同じで其の兩者の區劃に判然たる處がないものである。即ち普通精神病者の妄想とは何う云ふのかと云ふと、自分で自分の間違ひが分らぬ、自分の考を反省することが出来ぬのを妄想の特徴と致しますが、普通の人間にも其れと同じ到底反省することの出来ない様な人が澤山有ります。然からば其境は何處かと云ふと、其の區別が殆んど出来ず單に考違ひと云ふ點に於て丈けでも随分困難なことが澤山有ります。又或る精神病者の種類に依りますと、人の居らぬ處に人が見えるとか又人の居らぬ處で人の聲をきく事がある。これは幻覺とか幻しと云ふものでありますが。さう云ふものは多く氣違ひの人に來るものです。時には健康の人にもさう云ふ事が來ないとも限らぬ。例へば行軍をするとか、或は暴動が起つたとか、殊に戦争などに於ても澤山其例があります。又或は夜陰心配をするとか怖いと云ふ様な場合には其様に一種の幻覺が起ると云ふことは疑ひない事實であります。又碁打などが、碁を晝間打つ

て夜になつてから盤面が有り／＼天井に見えること云ふ様なこともよく聞く所であります。夫故に妄想とか或は幻覺と云ふことは普通は精神病者に有つて通例の人間には無いと思はれて居りますが、能く考へて見れば特別の場合には通例の人にもさう云ふ事が起つて來るものであります。尙其外に、精神病者には隨分噪ぐのがあります、併し普通の人間でも隨分狂人に異ならぬ噪ぎを一時することがあります。それから酒を飲むと普通の人間でも酩酊する。酩酊した時は普通でない、一種の狂態を演じ狂人との區別が殆んど出來ぬものであります、殊に酒亂など、云ふものでは非常に亂暴をするのがある。さうすると普通の人の酩酊と酒亂との境がなくなつて了ふ。斯かる點も考へますと其細かい事は無論今申上げませぬが、大體から見ても氣の違つた者と同じ様なことが普通の人間にも有るのでありますから、其等の點に於ては狂人と常人と區別する事は出來ぬのではないかと考へられます即ち吾人は一つの特徴のみに依つて是は病人である是は病人でないと云ふことを決定することは普通の場合には困難であると申すに憚らぬのであります。

もう一遍繰返して申しますと、さうもあの人間は氣が違つてゐる、斯う云ふことがあるから違つて居ると云ふことを話しますけれども、それだけでは吾々は氣違とは思はない。噪ぐのは普通の人間でも噪ぐ。噪ぐからと云ふてそれで氣違ではない。ですから素人の方が或る點だけを以てよく精神病といふことを決めますが、それは醫者の方では正しくないと思ふ。即ち吾々が裁判所で或事の鑑定などを致しますと、醫者は何でも氣違にしたがること云ふことを素人の方が御話しになります、吾々はさうは思はない。素人の

方が、却て普通の人を精神病者にしたがると思ふのであります。例へば新聞などに竊盜狂とか放火狂とか或は色情狂とか云ふことをよく書きますが、吾々の方ではさう云ふ病氣は認めない。それは素人の附けた病名或は少く共四五十年前の精神病學者の附けた名である。一つの徴候だけで以て精神病と云ふものを定義した時分のモノマニ―所謂偏狂と云ふのであつて、普通の精神病とは云へぬのである。夫故に吾々醫者、殊に専門の學問を修めた者から申しますと、唯だ一つの徴候だけを以て、あれは氣違であるとか、イヤ普通であるとか云ふことを決めるのは非常に困難な事で又不可能の事であります。尙ほ一つ喩へをとつて申しますと、咳をする人がある。咳といふものは誰でもする。あの人は咳をするから肺病だと云ふのは是は間違ひである。病氣の際に來る現象は、病氣になるために全く平素ない病狀の現はるゝのでなく普通の人の現象と云ふものも病氣の時の現象もとは同じである。たゞ其の現はれ方が異なるのである、是は精神病に限らない、身體の病氣にも同様である。例へば熱病にしても別に普通全く無い熱が其時にのみ起るのではない。三十六度五分位は普通の人間であつてもあるので唯だそれが四十度とか三十九度になつたと云ふ丈けのことである。又同じ事で頭痛にしても頭の痛い位のことには普通の人間にもある事である。併しそれで病氣であるとか病氣でないとか云ふことは判らぬので、要するに一の徴候のみで病を區別する事は出來ずその病氣の配合の如何に依つて吾々が之を斷定するのであります。即ち病者に來る一つの徴候は健康な者にも病人にも同じである。たゞ其程度及び來たるべき時が違ひ又その組合せ方が異なるだけで

ある。吾々は多くの特徴を結付けて是は病氣であるとか病氣でないと云ふ風に断定をするのであります。丁度軍の參謀が多くの情報を齎らして最後の断定を下すと同じ事であります。醫者の上手下手の起る理由はそれと同じ譯であります。即ち澤山の症状を集めて其れに依て断定を下すと云ふことになる。容易い病氣ならば誰でも知つてゐる徴候が揃つて居りますが、少し六ヶ敷い病氣になると色々な徴候を探してこれを結付けると云ふ事をしなければならぬから其所に醫者の巧拙が起るのであります、これは餘談ですが序でゝすから申し上げます。

病氣は斯くて多くの病狀群の集合より成るものであります。その多くの病狀群より一の病であると云ふ事を考へることが正しいか何うかと云ひますと、是は少なくとも二百年三百年前から學術的に研究した結果とに基づく所謂醫學の力にあるもので、其等の特徴のある人の腦を解剖して見ますとか又は腦を顯微鏡で見た結果などを照し合はして見れば斯かる病狀群のあるものは斯かる腦の病氣であつたとか、と云ふことを知り得るので其の經驗に基づいて現今に於ては單に多くの徴候の結付きのみを見て解剖しなくとも生前に是は病氣でないとか又は病氣だとか云ふ事を断定する事の出来るのであります。

されば今一遍語を換へて申しますと、精神の病氣とか氣違と云ふ者は單に素人の目に付く所の一つの徴候だけに依つて断定されるのではない。多くの徴候を見聞し、それ等各徴候を集合して従來の經驗により既往の經驗上其等の特徴のある者は病であり又之が癒るものであるか癒らない者であるか、死ねば何う云

ふ變化が起るものと云ふ様な、色々な事實を推測しうる者であります。それは全く醫學の力であります。偕而右申上げた様なのが即ち病氣と云ふ者であります。茲に於て病なるものが判つて初めて普通の人と病氣の人と云ふ事が明かに區別されるのであります。所が茲にそれだけでは尙ほ分らぬ者がある。それは何かと云ふと、未だ從來吾々の經驗上では足りない所がある、即ち今迄さう云ふ事を實際經驗しなかつた事がまだ世間には澤山ある。その他には凡ての徴候の現れ方がまだ完全に行かない間の時期であります。殊に精神の病ではどうも精神病らしいか尙ほ其の病狀の完全に具備しない時がある、又一生涯病とするの資格の足りない状態がある。殊に生來性に病人ともつかず普通人ともつかぬ性格の異狀者がある。普通の人は違つて、常識では何うも分らぬ不品行の行があるとか、妻子眷族が澤山あるに拘らず放蕩をするとか、何うしても普通の心理状態では説明がつかぬ分らぬ人がある。又或は普通では何うも分らぬ非常に感情の激し易い人がある。又或は非常に法螺を吹くとか、その他尙ほ色々調子の變はつた人間が世間には澤山あるさう云ふのは普通の精神病だけの徴候を備へて居らない即ち眞の精神病とも違ふのである併し普通の人間とも違ふ人である斯くて普通人でもなく病人でもない人が出来るのである。又斯かる人は兎角普通の病氣の如くに一定の経過と云ふものがない即ち病氣と云ふものは何週間で治るとか何ヶ月とか経てば癒るがまた再發をするとか云ふ風に一定の経過があるのにそれ等の人にはかゝる経過がない。多くは生れ付きであつて一生つゞき而かも精神病と名づける程十分に徴候が揃つて居らぬものがある。低能とか或は不良少年

とか云ふ様なものも又たそれに屬するのであります。

かう云ふ人間に就いては佛蘭西の學者により早くも研究せられて居つたが獨逸の學者に於ては前世紀の半ば以後から稍々研究の緒につき、殊に千八百九十年にコツホと云ふ人が所謂低格論と、云ふ本を著しました以來現今に於て熾んに注目せらるゝ問題であります。コツホの書いた本と云ふのは精神病的低格論と云ふので有名な本です。それには智慧が足りないばかりでなく、感情の方の十分に行かない一種の中間者の事を詳しく論じ其の原因などにつきても又細かく論じて居る近來の説では此低格者とは或方面からは大人の如く發育しても其實子供の様なもので即ち年齢は大人であつても精神的發育が子供の或状態に止まつてゐるものである一種のレザンファンであるとか云ふて羅典語でインファンチリスムス即ち小兒型とも云はるゝものである又た其等の人は普通でなし、さりさて精神病でもない其中間に屬すべきものである、即ち普通と精神病との境で中間状態と名づくべきものであるとか云ふて居ります。従つて従來は精神病と健全者とを何うかして判然と區別しやうとしたのですけれども、是は不成功であつて、到底精神病と常人とは區別のつかぬもので寧ろ其の間に中間的人間と云ふべきものを設ける事が正しい其の區別をハッキリとしやうとしたのは間違であるとか云ふことに考へついたのであります。

扱てしからばさう云ふ中間状態と云ふものは何であるかと申しますと、是には一時的に起るものもある。例へば婦人の月經時の軽い精神の變調も其の一です即ち月經時などは普通の人とても多少の變化があるが殊

に神経過敏の人に於ては特に烈しく變はつた状態を呈するのであるその他或は酒の中毒であるとか又は非常に身體の疲れた場合とか又は感情に激した場合とかのモヒの中毒その他それに類するものでは一時的にさう云ふ中間的の状態に陥る場合が中々多いのであります而かも尙それより多いのは永久的の中間状態であつてそれは生れ付きの状態で一生涯を経過するのであります。而して斯く生來性の調子の變はつた人間は普通偶然變はつた人又は變人など、申されて居りますが、其の變人は醫學上より見ますれば偶然の畸人變人と云ふのでなく概ね病的の變人であるのです。日本でも教育學者中に惡辯論など、譯してそれ等の性格異常者の事を譯し又は著述してありますが、それによつて見ますると多くは教育の缺陷であるとか或は偶然さう云ふ變はつたヤンチャンな子供が出來たのであると云ふ様に考へてゐるやうです。これは獨逸邊りでも同様で昔は其等の惡癖は單に教育の缺陷など、考へ居つたのです、殊に有名なストリウムベルなども元來教育者でありますから初めは左様に考へて居つたのですが漸次經驗を積むに従ひそれは矢張病氣である、少く共病的のものであると云ふやうになつたのであります。

然からは醫學の方はそれ等の人を病的であると、普通の状態の變つたのではないと云ふ事を考へますのは何故であるかと申しますとそれには多くの理由がありますのです。今そのうち二三の判り易い事を述べますとその第一には其中間状態と云ふ人の心理状態は普通の人間の心理状態より病人の心理状態の方に近い。従つてさう云ふ人間を取扱には普通の人間を取扱つた先生よりは精神病者を取扱つた先生の方が取扱

が旨い、取扱が樂である。つまり、さう云う變つた人間の精神状態を検査しまた救濟すると云ふ事は病的に近いものとして考へる方が宜からうと思はれるのです。第二には、さう云ふ精神病的中間者の起る理由は寧ろ遺傳的乃至變質と申しまして他の精神病などを生じます原因と殆んど同一のものであります。普通人の考ふるやうに教育の缺陷であるとか、家庭が悪いとか、父親が無いから斯うである母親が無いから斯うであるとか云ふ事は單に表面上に表はれたる事でありまして内實にはもつと深い原因が潜んで居るのであります。例へば親に花柳病があるとか、或は親が大酒をするとか、母親が非常な神経質であるとか、或は又其家に神経質の病人が多うかつたとか云ふ様な事が伏在して原因をなして居るのです是等の事を詳しく述べます事は問題が非常に六ヶ敷くなりますから省きますが兎に角さう云ふ原因から今申した様な中間状態の人間と云ふものが出来易いのです。第三には斯かる中間状態の人間は精神上のみならず身體上にも或る特徴がある、一種の足りない所のある事が多い。是は昔から悖德狂或は生來性の犯罪人などにも身體上に一種の形相があると申された事でありまして、さう云ふ者には一種の特徴のある人が多いのであります。無論従前考へた學説と今の考へとは多少異なる處もあり當時の考に服従することの出来ぬ點も多くなりますが、其の根本的思想たる點は矢張り昔の考へと同じで中間状態の人間には普通の人間と異つた身體的特徴を有する人が多いと云ふことは疑はれない事實であります。それ故に普通の人間例へば兵役又は學校に居る人間と監獄に居る人間とを較べて見ますと、個人々々では分りませぬが、二百人三百人と集めて比

較して見ますと確かに犯罪者などには身體的の違ひが多いと云ふことが分ります。それと同じで中間状態の人又は精神病者などに於ては普通の人に比較して見ますと身體上に變つた點のある人が多いのです。尙此點に就きましては非常に誤解を來し易く、一寸聽くと間違ひを起すかも知れませぬから其詳しいことは略しますが、兎に角今お話しした事實は眞實で間違ひないと思はれます。尙ほ時には身體的特徴に於て違ふ所が多いとか又は遺傳の關係が多いとか云ふ事につき、時に多少辯駁なさる人もありますが、それは深く又久しく研究して見ると其の辯駁は自ら訂正せねばならぬ事となり前申し上げた吾々の説に歸一するものであると云ふことを確信するのであります。又第四にさう云ふ中間状態の人は常人に比し精神病になり易い。その病に罹りやすいものです。例へばヤンチャンとか我儘と云ふものは多くは神經過敏の人であります。斯かる神經過敏の人は僅の事より一時的の精神病的發作を起すものが多い。それも詳しいこと申はしませぬが、事實さう云ふ事があると云ふことを確信致します。

尙其以外にも種々の理由がありませうが、兎に角今申しました様に變はつた人間、少く其精神病の専門家が是は病的の人間といふ名を附けた者は普通の人間の範圍に於けるものでなくしてたとへ眞の病氣でなくとも病氣の方に接近して居る人間であると云ふことは間違ひないと思ひます。

然らばさう云ふ様な精神病と普通の人間との境に這入る可き中間的人殊に生來性又永久性の人格は何う云ふものであるかと申しますとそれには澤山の種類がありますが今之に就いて二三の例を舉げてお話

致しますと、

先づ第一には、常人に比して甚だ怒り易い、又不安な落ちつかないハシヤグ性質の極端な人があります吾々醫學の方で英語のメニア、獨逸語でマニー日本語で噪狂と名づけます一種の精神病があります。その程度の輕くて尙ほ精神病と云ふほどでなくても平素それに似た状態の人がある、而かも時々眞の噪狂と云ふ病が或時に發作して來る事がある斯かる場合には尙ほ眞の精神病と云ふ程ではないが噪狂と云ふ病の特徴を輕くは持つて居つて常人とは異なつて僅の事から非常に怒り易くなり。又或時には非常にはしやぎ、入の事を世話好きとなり干涉をしたがり又或時には何かが非常に能く出來ると思ふ事があり。時によつて其の作業にむらがあつて他の時には全く物が出來なくなる人に逢ふのもいやになる少しは厭世的氣分を持つやうになる而かも又或時には再び非常に能く出來る或時期が來て、やたらに人を訪問したり僅の事に我慢が出來なくなり人と争ふ、放蕩をすると云ふ様な状態となる人がある。又或時には同じ状態で少しも眠られない。數日間不眠に陥り又他の時は寢て許りゐると云ふ風の事もある。よく世間では眠られないと云ふとそれは神經衰弱だと云ふてすましてゐるけれども、不眠のつよいのは單にそれのみに限りませぬで、今申した様な状態の病氣の發作してゐる時にも來ることが多いのであります。又さう云ふ人の状態は他の人の悪いことに對して少しも我慢が出來ない。平常の人ならば我慢しますが、その状態の時には少しも我慢が出來ない。無遠慮となる、従つて他人の不道德を責める事が甚だ猛烈である併し自己は随分不道德の事をし

てゐるがそれは棚に揚げて置いて他人の不道德のみを烈しく責めるやうな事が多い。而し其等人格の人は空想家であり又文才に富む人が多い。随つて人の急所を捉へて、手厳しく文字を以て攻撃する人がある。されば若し其の人の性格が悪いときにその職が悪徳新聞と關係でもあらばそれを利用して人の悪口を言ふて金を強請るといふ様なことは屢々する。其時には更に遠慮がなく僅の事に激して少しも假借することが出来ないといふ風であります。又さう云ふ人は、系統的な真面目の仕事は出来ませぬ時に依ると自分の家事を抛擲して何事もせずにならぶらうとして居り強請でもして世を渡り人からさらはれて生活をして居ると云ふ風の人がある。それで強請を肯かぬといふと直ぐ腕力に訴へる事が多く、従つて喧嘩などをすると事はずである。又さう云ふ人は酒を飲みますと非常に酒の上が悪い、酒亂となり酒の上で亂暴をする事が甚だ多い。それ等は中々訓誡を加へても一定の時期が來なければ直らぬものです。されどさう云ふ人は智慧の發育の方は低能の人もありますが、低能のみとは限りませんで普通の人も多くあり又中には智力の發達が中々好くて辯舌もよく一寸見ても病氣とは思へぬ位の人が多い。殊に其の病的性格より世を呪ひ不平家となり一種の考へ違ひを起こし、或は社界主義者破壊主義者となり。然かる時は極端なる人間となるもの多く随分ストライキの張本人などに此の種の人格者が多いのであります。而して斯かる人は一寸見ても病人又は病的人格とは見えませんが一生を通じて見てゐると晩年になつて精神病を起す事もあり、又其の奇行を詳しく觀察すれば何うしても病的人格としか見えぬものが多くあります。又同じ種類の人格が

矢張感情の偏頗なる點から迷信に這入りますと何でも關はずに熱中して、自己の財産などは抛つてしまつて、家族の迷惑などは更に構はぬやうな事をする人もあります、又中にはやたらに訴訟をする。此位の事は些細だから抛つて置いても宜からうと思ふ事にも非常に執着をする人がある。又僅な金銭上の争から巨萬の財産を蕩盡してしまふ人もある。普通の人から考へると實に馬鹿々々敷いけれども、本人には一種の感情的熱情より平氣で、又それを止むる事が出來ずに居る状態を呈する人も澤山あります。

茲にはホンの一例ではありますが、或相當な資産家の一人息子が色々の事に手を出し而して常に纏まらずに損をして居りましたが、或時は此度は必ず儲かると云ふので自動車會社を造る事となり、わざ／＼亞米利加まで至急電報で自動車を何臺か注文して取寄せ、それから來た時は田舎で十何臺かの自動車に旗を立て、乗廻した事もあるさうして後の拂は少しもしない。親から意見を云はれ申譯がないと云ふので山へ這入つて坊さんになつてしまつた。斯かる事を何回も繰り返へしてついに直らぬのでありますそれで誰も病人とは思はない。實にその平素の行ひにつきては一寸見ても少しも病人らしき處はないからただ一種變つた人だと思ふてゐる位であります、是等の例は尙ほ詳しくお話しなければ十分御會得が行きますまいが確に今お話した様な人格でありますので、さう云ふ人が世間には中々多い。

斯かる人が善き方向へば宗教改革をしたり、ルーテルのやつた様な事も出來ませう。それ等の人には時に依ると幻覺などが起つて來る。ジャンダークなども自己の身命を投じてよい方に熱中したがその性格

中には少なくも中間者と思はる點が決して少なくない。一般にそれ等の人は學問もあれば言ふことが奇矯であつて破天荒なと言ひますから一時は一般の人から篤く信仰される場合が多い。是は話が違ひますけれども、宗教などを起す人は非常に熱心である。その熱心な點があると共に其の隠れたる點を見ると兎角只今お話しした様な種類の性格の人が随分澤山有るのであります。

以上は單に躁病類似の一種の中間状態の事をお話したのに過ぎませぬがその他に中間状態に屬すべき人格者の種類は澤山あります。それを今一々詳しくお話しした事は時間の都合もあり又精神病の全般を御讀みになれば判る事でもありますから略しまして、たゞ其の他の數種を數へ上げますと第二には生來性に氣の鬱さく人第三には是は餘り多くない事でありませぬけれども病的の詐欺者です。病的に嘘を言ふ人です。凡そ嘘にも色々種類が有りますが、本病者は空想力が盛でありまして、其自分の空想したことを本當と思つてしまふために實際と虚事とを取り混せて空想を其儘本當と思つて話すのであります。されば自分では自が嘘をつくといふ風には思はない。目的があつて自分の良心に背いて殊更嘘を言ふのではないのです。されば他人から見るとは嘘であるが本人は本當と思つてゐるのであります。さう云ふ人は矢張り生れ付きてあつて七つ八つ位の時からその兆があり段々さう云ふことが起るのです。さう云ふ人は又一寸見ると伶俐な人間の様に見えます。時には矢張文才などに長じて居りまして、殊に婦人などに關しての思想を練ることが中々巧みでありまして女をたらす事などはうまいものです。又英語が旨いとか手細工が上手だと

か一般に器用な人が多い。併し乍ら一本道を根氣好く遣り通すといふことが出来ないため、生涯ブラ／＼して暮して居り多くは無錢飲食をすることか、或は病院の借倒しをすることか、或は旅館へ行くと大きな行李に新聞などを入れて置いて、是は自分の荷物だと云つて、さうして何處へ行つたか行衛不明になるなどの人が多い。又或は夫婦約束をして、それを直ぐ止めて何とも思はないなど、云ふ人もある。まかり間違ふと情死の眞似をする。監獄に這入ると一種の精神病の様な状態を起して、出ると直ぐ癒るなど、云ふ色々な事がありますが、斯う云ふ癖は一生涯直りませぬ。少く共四五十歳迄は同様な状態を續けるのが普通で一見直つた様でも決して直つたのでなくして、一種の變はつたタイプの人間があります。

第四には其他に色情の色情を主として示す型の中間者もあります。第五には普通申します低能であります。低能と云ふことは中間状態上最も數の多ひもので従つて國家的に非常に重大なる關係のあるものであります。私等が嘗て調べた所に依りますと、陸軍では一中隊に一人位はあるやうです。現在では選兵の方法が好くなつたからさほどは無いかも知れませぬが兎に角軍隊に低能が左ほど多ひと云ふ事は陸軍の恥辱です。獨逸邊りでは選兵が非常に八釜敷い。身體のみならず精神的能力の検査を精密に調べる。精神的能力の悪い者は直ぐはねる。それによつて陸軍部内の犯罪とか自殺とか云ふ事が非常に減じたのでこれはその隣國たる奧太利でもさうは行かぬと云ふて大層浦山しがつてゐる次第であります。これは全く獨逸殊に普魯西では精神病學専門の軍醫があつて兵の精神的状態に就いて非常に研究して居りそれが實行的に採用とな

りましたからであります。我國の陸軍では何う云ふ事になつて居りますか一考を煩はしたいのです。唯だ悪い事をするに直ぐに罰するとか營倉へ入れると云ふ様な姑息な方法では根本的に何事も出来ぬのです。兎に角さう云ふ風でありましては眞に犯罪を減じ兵の能率を増すと云ふ事は不可能であつて識者の探らざる所であります。實に低能は一般に二百人に平均一人位あるとすれば此の低能と云ふ問題は國家的に十分講究すべきものです。

又此の低能に關する事では幼年囚の事ではありますがこれにも大概其四分の二即ち二分の一或は五分の三は一種の低能であるのですから幼年犯罪豫防については又低能豫防低能保護と云ふことに氣を着ければ眞の豫防は出来ぬのであります。實に普通の人は餘程の馬鹿でなければ低能と云はない。簡單なる記憶などが善ければ低能だなどは氣の附かぬ人がある。併し記憶や一般の動作は一番簡單の作用であつて、小さい子供でも記憶や動作には普通に出来る人がある。併し低能にはさう云ふ能力は有つても判斷力とか思考力とか、或は感情を抑える力とか云ふ人間に固有なる進歩した能力と云ふ段になると頗る缺けてゐる。さう云ふ點を検査すれば低能なる事がすぐ判る、然かるに其等の事を検査せずに唯だ簡單な記憶力などを検査しても分るものではない。

又第六、低能には單に知力の方面のみならず感情の方面にも低能なる人が随分澤山有ります。即ち道徳力の薄いか所謂悖徳狂或は粗暴で忽ち興奮したがる人格であるとか、或は一種の衝動と申しまして、深

い考へなき行をするやうな人もある。例へば泥坊をして見たいとか、火を付けて見たい杯と云ふ考へが起るるとすぐそれを實行する一種の低能があります。精神病學上に於ては普通これを低能とは申しませんが色々の別の固有の名稱があります。例へば反社界者、興奮症、衝動動作症などの名があります。それを一概に此處では低能として申しますとつまり是等は皆普通の人間と精神病者との境であります。

第七。尙其外に酒亂とかヒステリーとか或は癲癩性氣質とか申します普通人と精神病との境に位すべきものが尙ほ澤山有ります。それを皆お話すると云ふことは到底今日出来ませぬから申上げませぬから略しますが要するに中間の状態と云ふものが世間には非常に多いものであります。中にも犯罪者となり浮浪人となり遊蕩家、無賴漢、反社界者などとなり頗る多いものです。元來社會が漸次文明になるに随つて精神病者の數が増すか何うかと云ふことは毎度出る問題ではありますけれども是は困難な問題であります。勿論精神病者中の或種は文明と共に増す傾向がある例之花柳病から來る精神病などは確かに近來殖えると云ふことは事實であります。これに反し遺傳的精神病と云ふものはさう大しては増さぬやうに思ひます。少なくも人口の殖える割合には増さないらしいと云ふことは一般に言ふてゐる所であります。然るに此の中間状態の人間と云ふものは文明になり頭を多く費すと共にその數が非常に多くなると云ふ事は又慥かであるやうです。殊に少なくも社會が複雑になるに随ひまして斯ふ云ふ人間が獨立の生計を營む事が出來ぬため社會に害を及ぼすやうになると云ふ事は確かであり、それがため健康者の能率を奪ふ事は非常なもの

のでありこれは是非國家的に救済することが必要であると思はれます従つて現戦争の前には外國では何うかして斯う云ふものを撲滅したいと云ふ考から一種の此種の救済局を云ふものを拵へて其方の研究に掛かつたのであります。日本でも現代既に此種の人格者の救済を企圖せねばならぬのであります。即ちさう云ふ人間が殖えると云ふ事は頓て日本の將來の發展に悪い考を與へ或は遊惰不平の民を作り又は悪い思想を流布する事ともなり、種々の點に於て此問題は將來大に考へなければなりません。實に其等の始末につきても精神病學者は絶へず社界學者と共に相提携して其の撲滅に従事してゐる次第であります。但し日本はその詳細の事を申し上げる事を略します。たゞ精神病と普通の人間との境と云ふことは唯だ面白半分に考へる問題ではない弘く社界諸般の人が共々に講究すべき重要な問題と思ひましてそれには是非貴君方の御一考を煩はしたく茲に一席の御話をいたした次第であります。長く御清聴を煩はしました事につき謹謝いたします(完)

